

君津中央病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	質量分析装置(MALDI-TOF MS)を用いた ESBLs (Extended-Spectrum β -Lactamases) 産生菌の迅速同定法の検討 (倫理委員会承認番号：650)
当院の研究責任者 (所属)	加地 大樹 臨床検査科 臨床検査技師
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 准教授 松村 有里子
本研究の目的	感染症の初期治療では、経験的治療として広域スペクトルを有する抗菌薬が投与されます。しかし、Extended-Spectrum β -Lactamases (ESBLs) 産生菌や Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae (CRE) などの多剤耐性菌の増加が世界的な問題となっており、それらの蔓延を防ぐために適切な狭域スペクトルの抗菌薬に変更する必要があります。近年、臨床現場へのマトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計(Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization-Time-of-Flight Mass Spectrometry: MALDI-TOF MS)の導入により、分離培養後発育したコロニーを用いた微生物同定検査が従来の18時間から約10分へと大幅に短縮しましたが、薬剤感受性試験には汎用な迅速検出法はありません。今回、ESBLs 産生菌が産生する β ラクタマーゼに着目し、MALDI-TOF MSで β ラクタム系抗菌薬の構造変化を捉えることで、迅速にESBLs 産生菌を検出する方法を大学院で研究してきました。この方法を用いて、尿路感染症が疑われた尿検体を直接使用し、分離培養することなくESBLs 産生菌の判別することにより耐性菌の迅速検出法の構築を目的とし、最適な抗菌薬の投与が1日以上短縮することから、貢献度は大きくなるものと考えます。
調査データの	2022年1月1日から2022年6月30日

該当期間	
研究の方法 (対象となる方)	臨床および細菌学的（グラム染色）により尿路感染症が疑われた検体を対象とします。
研究の方法 (使用する情報)	診療録情報、薬剤感受性検査データ
資料・情報の他機関 への提供	この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録及び余剰検体より取り出しますので、改めて患者さんに行っていただくことはありません。
個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からなくした(匿名化といいます)上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
本研究の資金源 (利益相反)	利益相反なし
お問い合わせ先	国保直営総合病院 君津中央病院 医療技術局 臨床検査科 加地 大樹 (研究代表者) 〒292-8535 千葉県木更津市桜井 1010 TEL:0438-36-1071(内線 3342) FAX:0438-36-8457
備考	